

アカゲラ通信



第2駐車場のオープンは4月の予定です

旭山記念公園第2駐車場は、積雪期は閉鎖しており、一般のご利用はできません、ご了承ください。

再オープンは2019年4月を予定しております。

第1駐車場は除雪が入っており、冬の間もご利用できます。

野鳥の名前を英語で見ると

旭山で見られる野鳥の名前を英語で見て考えてみました。

■シマエナガは「カラ類？」■

シマエナガ＝エナガは”Long-tailed Tit”、直訳すると「尾の長い”tit”」。

シジュウカラ”Great Tit”「大きなカラ」、ヤマガラ”Varied Tit”「多彩なカラ」、ハシブトカラ”Marsh Tit”「湿地のカラ」で、この”tit”は「シジュウカラ科の鳥」を指しますが、広い意味での「カラ類」でもあり、エナガは英国でも同様に「カラ類」というイメージがあるのでしょう。



ところが、ゴジュウカラは”Eurasian Nuthatch”で”tit”ではありません。

英国ではシジュウカラとは違うと認識されているようですが、確かにシジュウカラとゴジュウカラは正直、それほど似ているとは思えません。

なお、”nuthatch”的”hatch”は車のハッチバックと同じ「開ける」というニュアンスで、木の実を割って食べる様子からとられたと考えられます。

■英国では目の付け所が違う？■

・アカゲラ”Great-spotted Woodpecker”　・オオアカゲラ”White-backed Woodpecker”（↑上写真・雄）

・キセキレイ”Grey Wagtail”　・ルリビタキ”Red-flanked Bushrobin”

これらは、名前につけられた色の着目点が日本語と英語では違います。

アカゲラは「大きな斑点のあるきつつき」これは識別ポイントである翼の大きな白い斑点から、オオアカゲラは「背中が白いきつつき」、どちらも翼に着目していて、野外で目立つ「赤」は名前に出てきません。

キセキレイ「灰色の尾を振る(もの)」も、あの黄色より灰色の方が特徴的と捉えての名前でしょう。

ルリビタキは「脇の赤い薮のコマドリ」、英語では「幸せの青い鳥」ではないのかな…

などなど、日本とは目の付け所が違う名前もありますが、ここに挙げた例は、英国や英語圏の方々には申し訳ないですが、日本語の名前の方が色彩感豊かで情緒があるように感じます。

■もちろん同じところに目を付けている名前もある■

キバシリ”Tree Creeper”、オジロワシ”White-tailed Eagle”、メジロ”Japanese White-eye”

キバシリは「木を這うもの」で「走る」が「這う」に変わっていますが意味は同じ、オジロワシはそのまま。

メジロは「日本の目が白い(もの)」、正確にいえば白いのは目ではなく目の周りですがそれも同じです。

■キクイタダキ”Goldcrest”とクマゲラ”Black Woodpecker”■

最後は、英語でも名前の付け方の発想は同じですが、日本語ではちょっとひねっているもの。

キクイタダキの英語は「金のとさか(いただき)」ですが、日本語では「金」が日本ではおなじみ「菊」の花に。

クマゲラは英語ではただの「黒いきつつき」ですが、日本語の「熊」は、黒くて大きくて森にいるというイメージ、どちらも素晴らしい名前だと思いませんか？

野鳥の英語名を見ると、考えさせられること、気づかされることがたくさんあります。

英語の名前の考察は、またいつか特集します。

ネイチャーカフェ 3月は2回開催します

●「今度こそ鳥の鳴き声に強くなろう②夏鳥編」3月21日(木・祝)

「旭山野鳥の鳴スポット案内」3月30日(土) どちらも13時30分開始(15時まで)、600円です。

写真と音で野鳥の鳴き声を解説し、聞き分けのポイントなどをお話しします。お菓子付きです。

◆旭山野鳥観察会 2019年3月9日(土)8時開始、参加費100円(保険代として)、双眼鏡無料貸出あり。

旭山野鳥メモ ①ヤマゲラ

今月から旭山記念公園で見られる旬の野鳥の短いコラムを連載します。

①ヤマゲラ Grey-headed Woodpecker *Picus canus* キツツキ目キツツキ科
背中側が渋い緑色のきつつき、大きさはハトを少し細くしたくらい。

本州以南には似たような色合いのアオゲラが生息し、この2種は津軽海峡の「ブラキストン線」で分布が完全に隔てられているが、アオゲラが日本固有種であるのに対し、ヤマゲラはユーラシア大陸に広く分布。

11月から5月に大きな声で「ピヨッピヨッピヨッ」と鳴き、その音は2~300m

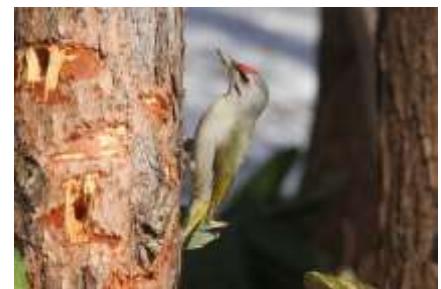
離れていても聞こえるほど大きい。この声は時期的に繁殖行動に関わるものと思われる。

ヤマゲラは短く「ピヨッ」とも鳴くが、強い声で「キヨッ」と鳴くアカゲラとは違い、大きな体には似合わず、か弱くてなんとも頼りなげな声。近くにいないと分からぬほど小さな声だが、飛びながら鳴くこともある。

大声で鳴く時期は割と存在感が大きいヤマゲラだが、大声を出さなくなる夏から秋にかけては「消える」。小声の上ほとんど鳴かないので森のどこにいるか分からず、出会うのも稀といえるほど見ることが少ない。

一方春先はヤマゲラ観察にはいい時期で、目立つ木や開けた場所でもその姿がよく見られる。

本人(鳥)はそんなつもりはないだろうけど、姿や行動にどことなくユーモアがあって、見つけると思わず笑みがこぼれ、ちょっと得した気分になる。ヤマゲラはそんな鳥ではないでしょうか。



3月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただか、森の家までおたずねください。

★シマエナガ=2月中～下旬にイタヤカエデの樹液を飲みによく来ていましたが、現在は繁殖行動に向けて群れが分散し、一度に見られる数は少なくなりました。

★ヒレンジャク=2月中旬まで20羽以上の群れが見られましたが、園内に長時間滞在することは少なく、どこかに飛んで行くようです。

★キクイタダキ=囀りを始めました。3月はまだほぼ毎日観察できそうです。

★ウソ=声は聞かれますが、近くで観察したという情報はありません。

★ツグミ=数は数羽ですが園内でよく声が聞かれ姿も見られます。

★クマゲラ=2月は園内西側エリアでの観察情報が多くありました。

★オオアカゲラ=2月後半は雌に加え雄の個体も観察機会が増えました。

★ヤマゲラ=2月後半から「ピヨッピヨッピヨッ」という声を聞くことが多くなり園内で姿を見ることも増えました。

★カラ類=シジュウカラも囀りを始め、カラ類の囀りを聴くことが多くなりました。



"Goldcrest" キクイタダキ

こぶしの花、この春はどうか～キタコブシ冬芽

毎年この時期になると、今年の春はこぶし＝キタコブシの花がどれくらい咲くか占い…もとい、冬芽の様子を観察します。

キタコブシは、花が咲く花芽と葉だけの冬芽の形が違い、

花芽を見れば冬のうちに春にどれだけ花が咲くか分かります。

今年は、森の家の前にあるまだ5mくらいの低いキタコブシの木にも、花が咲く大きな筆のような冬芽がたくさんついています。



(写真左)
花が咲く
大きな冬芽



(写真右)
藻岩山登山
道入口にあ
るキタコブシ
の木

編集後記

森の家では「木製フレキシブルパズル」の販売を始めました。
「ようてい木育俱楽部」さん手作りの品ですが、普通のパズルとは違い、
決まっため方がないため、作る度にデザインが変わります。 シマエナガのパズル→
頭の体操にもなります。森の家に見本があります、ぜひ遊んでみれください。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第66号 2019(平成31)年3月3日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先：電話011-200-0311 (土・日・祝日10時～16時) FAX011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/>